

## 生物多様性条約第3回Ad hocアクセスと利益配分（ABS）作業部会会合における UNU/JBA共催サイドイベントの開催

2005年2月14～18日にタイのバンコク（国連会議場）において、生物多様性条約（CBD）遺伝資源へのアクセスと利益配分（ABS）に関する第3回Ad hoc作業部会会合（WG3会合）が開催され、174カ国、90団体491名が参加した。

会合3日目（2月16日）の昼食時に、（財）バイイングストーリー協会（JBA）と国連大学高等研究所は、共同でサイドイベントとしてワークショップ“Results of the International Symposium: ABS, Experience, Lessons Learned and Future Vision”を開催した。各国代表、産業界（国際商業会議所、米国製薬協、ファイザー社及びイーライリリー社の法務担当者等）、NGOから60名の参加があり、その出席者数はサイドイベントとしては極めて大きな規模と言えるものであった。

JBAの炭田は2004年に開催したJBA・国連大学高等研究所合同シンポジウム「遺伝資源アクセスと利益配分：各国の経験、教訓、将来ビジョン」-医薬、化粧品、バイオビジネス業界のための最前線情報-についてその内容を発表し、討論ではマレーシア、タイ、オーストラリア、フィリピンからのパネリストが各国のABS促進措置について発表した。

製品評価技術基盤機構の安藤調査官は、現在進行中のCBD及びボン・ガイドラインにのっとったABS二国間協力“NITE・インドネシア共同プロジェクト”を紹介し、出席者から高い評価を得ることができた。会議後ドイツ及びウガンダ代表から日本との共同プロジェクトの可能性について打診されたことは特筆すべきことである。

なお、今回の会合に用意した「JBA・国連大学高等研究所合同シンポジウム2004、proceedings最新版」100冊は国連会議場内に設置された展示コーナーに置かれ、すべてなくなった。